

2018研修分科会開催案内

第10期 | 第4回 | 2018年10月4日

第4回開催案内

日時：2018年10月4日(木)
13時～17時

会場：国際基督教大学図書館
オスマー図書館GF会議室

アクセスは大学HP (<https://www.icu.ac.jp/about/access/index.html>)参照

テーマ：文献提供サービスを
振り返る

Time table

13:00-14:15

講演① 機関リポジトリ
を知る（阿部氏）

14:15-14:30（休憩）

14:30-15:45

講演② ILLのこれまでと
これから（中山氏）

15:45-16:30

大学図書館の文献提供
機能を考える

16:30-17:00

ICU大学図書館見学

大学図書館の文献提供サービスを振り返る

大学図書館には研究・学習環境を提供するという使命があります。今回は研究・教育に必要な文献を利用者が入手するためのサービスという視点で、そのあり方を考えてみましょう。機関リポジトリと、ILLという2つのテーマでご講演をお願いしました。

利用者が必要とする文献を、図書館がすべて所蔵していることは不可能です。なぜかといえば、必要とされるものはいわばロングテールのように、年間1回しか利用されないものが、膨大な数存在するからです。広く、文献情報とそのニーズと提供手段を考える時、資料の電子化とインターネットの環境下にあって、学術情報のオープンアクセス(OA)化の考え方を知っておく必要があります。学術情報流通の観点で、機関リポジトリや、OA化の方向がなぜ必要とされてきたかを「振り返」ってみましょう。

また利用者の要求に「無いよ」「無理です」と言わないためには、図書館間の協力が不可欠です。そしてILLは充足率を高めるための有効な手段の一つと言えます。最近では電子化、OA化によってILLは減少傾向にあるとはいえ、GIFのプロジェクト、NACSISのグローバルILL（日韓以外）終了は一つのトピック、今年はその節目の年として、ILLのこれまでとこれからを一度「振り返」ってみる時期だろうと考えます。

これらは、基本となる蔵書構築の問題とも深く関わります。さて、みなさんの大学図書館でも、電子ジャーナル、OA化、ILLにどのように取り組んでいくか、一緒に考えてみましょう。

事前課題

各自、所属している図書館の状況を事前に把握しておきましょう。雑誌の受入種数、ILLの利用件数等を10年前と比較し、機関リポジトリの開始年および登録状況なども調べて、所定の用紙に記入してください。

なおこの調査は、ご自身が図書館の状況を把握するためのもので、新たに数え直す必要はなく、学術情報基盤実態調査の記録の転記で構いません。

提出方法：

記入用紙のファイル名を以下の形式に直して、メーリングリストに添付して送ってください

「2018課題4〇×大_名前」

提出締切：9月27日（木）

提出先：

2018kenshu@googlegroups.com

なお、経費の推移については、学術情報基盤実態調査から、結果をまとめたものを添付します。

講演①：機関リポジトリを知る

阿部潤也氏（東京歯科大学図書館）

2018年3月時点で国内のリポジトリ公開機関数は構築中を含めて809機関にのぼります（NII学術機関リポジトリ構築連携支援事業 <https://www.nii.ac.jp/irp/archive/statistic/> による）。皆さんの中には大学図書館で勤務を始めた時点で図書館がリポジトリの業務を行っていて、当たり前のように受け止められている方もいるかも知れませんが、どうして大学図書館では機関リポジトリ公開に力を入れているか考えてみましょう。研修分科会では、2011年から必ず毎年このテーマを取りあげてきました。

「機関リポジトリ」について、その成り立ちや意義、概要を知することは、現代の大学図書館の役割・機能とは何かを考える上で欠かせないテーマだからです。今年も私立大学で最初にオープンアクセス方針を策定された東京歯科大学図書館の阿部潤也氏にご講演をお願いしました。

講演②：ILLのこれまでとこれから

中山昌也氏（横浜国立大学附属図書館）

NACSIS-ILLの統計情報が下記のサイトで公開されています。
<https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/stats/ill/reqnum.html>
依頼件数は2005年ごろをピークに、この10年間で1,093,523件（2007年）から585,833件（2017年）と減少傾向が進んでいます。NACSIS-ILLは1992年に始まり、現在では大学図書館になくてはならない存在になっています（昔ははがきやFAXでやり取りをしていました）。海外とのグローバルILLもあることが当たり前になっていた図書館では、今年からGIFがなくなり、不安を抱えている図書館、OCLCやAlmaへの参加を検討している図書館もあるかと思います。一方GIFがなくなっても困らないということもあるのでしょうか。横浜国大や東大でILLはじめ、レファレンス、利用者教育、システム、展示、資料の電子化等を担当されている中山昌也氏にILLについてのご講演をお願いしました。

会場アクセス（所要時間）

「武蔵境駅」バス 境93 約12分（2番のりば）終点国際基督教大学（大学構内）下車

「三鷹駅」バス 鷹51 約20分（5番のりば）終点国際基督教大学（大学構内）下車

★「国際基督教大学入り口」ではなく、終点・大学構内で降ります。

キャンパスマップは、下記のURL参照（図の2図書館の入り口から、研修分科会参加と言ってお入りください。）バス終点から徒歩約3分

<https://www.icu.ac.jp/about/campus/index.html>